2024年度　学習院大学東洋文化研究所　東洋文化講座

人工知能（AI）と東洋学

【講師プロフィール】

■講　師：大知　聖子氏
（名城大学理工学部・准教授）

岡山大学文学部卒業。同大学院博士後期課程修了、博士（文学）。専門は中国古代史。2018年より現職。北魏史におけるデジタル・ヒューマニティーズ研究を進めている。『計量的分析を用いた北魏史研究』（汲古書院）を2025年2月に出版予定である。

■講　師：橋本　雄太氏
（国立歴史民俗博物館研究部・准教授）

京都大学文学部卒業。同大学院文学研究科情報・史料学専修を修了、博士（文学）。国立歴史民俗博物館テニュアトラック助教を経て、2023年より現職。専門は人文情報学、近代西洋科学史。「みんなで翻刻」「くずし字学習支援アプリKuLA」などのソフトウェアを開発・公開している。

■講　師：近藤　泰弘氏
（青山学院大学・名誉教授）

東京大学文学部卒業。同大学文学部助手、日本女子大学文学部助教授、青山学院大学文学部教授を経て、現在、同大学名誉教授。博士（文学）。専門は日本語文法理論・日本語史・コンピュータ言語学。『日本語記述文法の理論』（ひつじ書房）その他の著書がある。

入場無料・事前登録制

監　修：安部　清哉（東洋文化研究所長）
司　会：莊　卓燐（東洋文化研究所助教）
　　蔣　允杰（東洋文化研究所助教）

学習院大学東洋文化研究所

開催形式
ハイフレックス型
にて開催

第113回東洋文化講座　10/31(木)17:30~19:30

中国古代史研究における生成AIの利用について―課題と展望―

大知 聖子 氏（名城大学理工学部・准教授）

2022年にChatGPTが公開されて以来、生成AIの発展は著しく、どの学問分野においてもその影響はもはや避けられない。本講演では文章生成AIの仕組みについて確認した上で、中国古代史研究において利用する場合はいかなる方法が考えられるか、また、歴史学研究に与える根本的な課題と展望について述べる。

第114回東洋文化講座　11/14(木)17:30~19:30

人文学におけるAIの可能性―資料翻刻における事例―

橋本 雄太 氏（国立歴史民俗博物館研究部・准教授）

歴史資料を用いた研究にもさまざまな形でAIが活用されるようになってきた。一方でAIの躍進は、学芸員や研究者といった専門家、また歴史資料の保存継承に携わる市民の方々の重要性を浮き彫りにしている。本講演では、歴史資料の市民参加型翻刻プロジェクト「みんなで翻刻」を事例にして、人文学におけるAIと専門家、市民の役割について考えてみたいと思う。

第115回東洋文化講座　11/27(水)17:30~19:30

生成AIを利用した日本古典文学研究―和文と漢籍―

近藤 泰弘 氏（青山学院大学・名誉教授）

チャット形式でいろいろな問いに答えてくれる生成AIが話題である。しかし、生成AIは、それだけのものではなく、その持っている内部の知識を取りだして使うことで、文学・語学に広く応用が可能である。本公演では、その方法を用いて、日本の平安時代における『源氏物語』や『古今集』といった和文と、『和漢朗詠集』等に見られる漢詩文とをAIの内部知識を用いて比較することで、従来知られていなかった類似性や引用関係を提示できることを示してみたい。

学習院大学東洋文化研究所

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1(学習院大学　北1号館4階)
■JR山手線目白駅　徒歩1分
TEL:03-5992-1015　FAX:03-5992-1021
E-mail:ori-off@gakushuin.ac.jp
URL:http://www.gakushuin.ac.jp/univ/rioc/index.html